未来こい！ネット通信

第２９号
2023 年９月１日
発行者　出雲市伊野地区
「未来こい！ネット」

ベナン マレーシア 中国 県外学生

子どもたちと避難所体験

八月一六日～二〇日、垂水邸を基地に国際ワークキャンプが開催された。参加したのはベナン、マレーシア、中国、県外日本人学生合わせて一〇人。

垂水邸で池への転落防止柵設置、用水路の泥上げ、中高生との交流会、避難所体験、伊野小クリーン活動参加など多彩な活動を展開して地元住民や子どもたちとの交流を深めた。

国際ワークキャンプが始まったのは二〇一七年。小さな地域・小さな学校で生活する子どもたちが世界とつながってほしいと多久和秀政さんが提案した企画だ。

避難所用のテントとダンボールベッドの組み立てに挑戦

避難所生活

折り合いのつけ方

加藤 なごみ
（埼玉県立大学）

防災キャンプで特に印象に残ったのは、次の３つです。

①避難所で起こりうるジレンマについて子どもたちと一緒に考えたことです。そこでは、一つの問題でも様々な解決方法があり、同じ決断でもその根拠・理由が異なるということを実感しました。

②非常食を実際に食べ、ダンボールの上で寝たことです。ダンボールの硬さや非常食の作り方・味を知り、普段の生活との違いを体感しました。ふだん非常食を食べる機会はありません。家にはベットや布団があります。私たちは、快適な環境で生活することに慣れてしまっていますが、避難所では快適な環境下で生活を送れるわけではありません。長期にわたって避難生活が続くほど精神状態や身体に不調をきたして、正常な判断や倫理観を持って決断することが難しくなることが考えられます。そのため、普段から避難所のイメージや起こりうる問題について考えたり、他者との付き合い方や折り合いのつけ方を学んだりする必要があると思いました。

③子どもたちと過ごしたことです。暇があれば体育館を駆け回り、はしゃぎ回っている姿や、少しの時間でも沢山のことを学び、目を輝かせている姿が見られました。その姿を見て、私たちも興味関心を持って物事に向き合っていく姿勢をもつことの大切さを思い起こしました。